

次世代自動車センター浜松 活動レポート Vol. 298

■ 自動車工学関連講座（中堅技術者向け Web セミナー）

第1回「トヨタ生産方式～中級編：自工程完結と継続的な品質改善」
（会員限定）

次世代自動車センター浜松では、会員企業の皆様から希望の多い中堅社員向け社内教育として、汎用的なテーマを取り上げ、自動車工学関連講座の一環として、中堅技術者向け Web セミナーを開催しています。

本年度も、多くの社員の皆さんが自社内で受講できる機会を企業力アップにご活用いただくため、カイゼンベース社を講師に、昨年度から内容も見直し、6回連続の Web セミナーとして順次実施していく予定です。

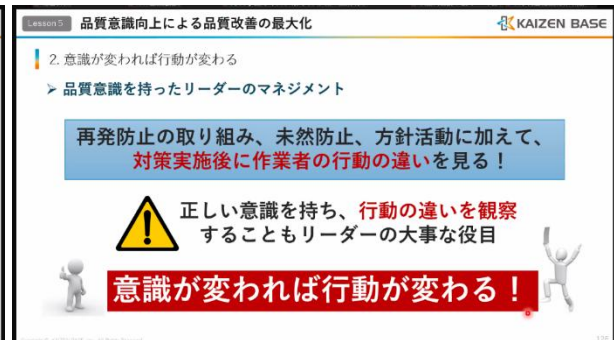
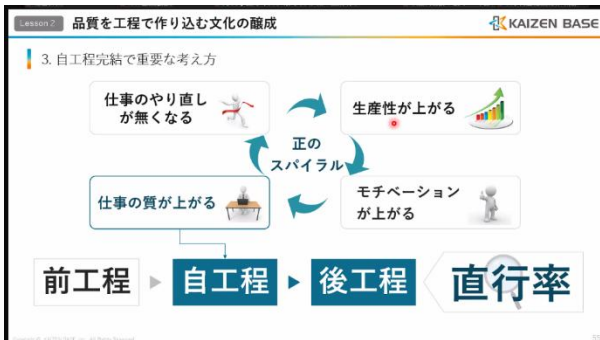
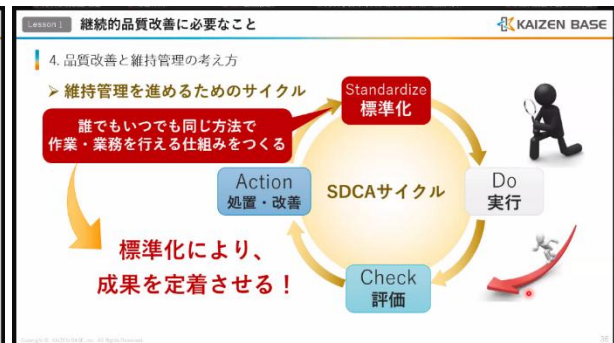
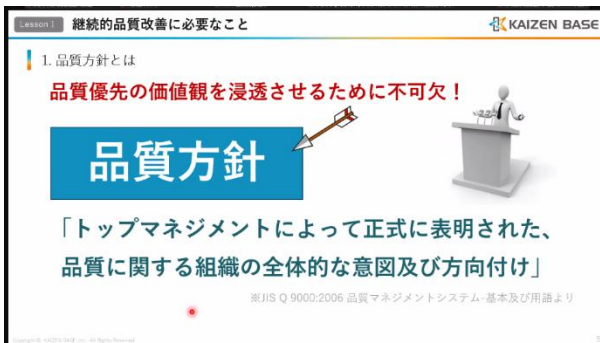
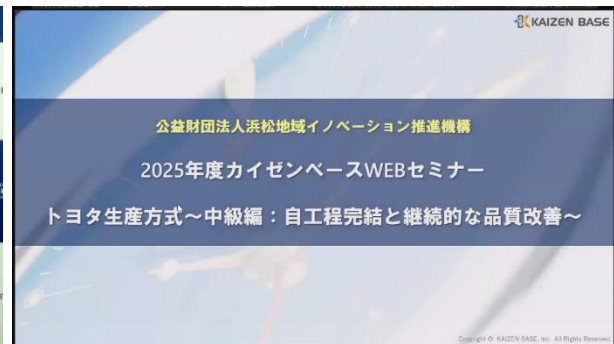
今回は、第1回として、当センターの望月センター長による開講の挨拶に引き続いて「トヨタ生産方式～中級編：自工程完結と継続的な品質改善」を Web セミナー形式で開催しました。

■ 日 時：2025年5月15日（木）13時30分～15時30分

■ 場 所：Web形式

■ 参加者：51社／435名

<開講挨拶>



【参加者の声】

- ・プロセス管理が大切だと理解した。業務が属人化しないように、標準化を図り業務の精度や効率を高めたいと思った。人の「働き」を自動化する大切さがわかった。目的とアウトプットを具体的に伝える、適切なコミュニケーションが手戻りを減らし品質を良くすると理解した。
- ・継続的品質改善に関して、「現状維持は衰退を意味する」考え方、改善と管理のPDCA⇒SDCAの繰り返し、標準化により成果を定着させること、またアウトプットの明確化と、モチベーションアップのための考え方が大変参考になった。
- ・プロセス管理においては源流管理が重要であること、標準化の基本条件の中に継続的改善が含まれること、を新しい知識として学ぶことができた。「自工程完結」の意味と重要性を理解し、仕事の質向上につながれると感じた。
- ・単に改善したり対策したりして不良を減らすのではなく、最終的には「人」なので、品質意識をいかにして上げれば良いかが、参考になった。
- ・標準化するだけでなく、継続的にPDCA—SDCAを繰り返すことが大事であると学んだ。現状維持は、停滞であり、改善を繰り返す事が大事という点を改めて確認できた。
- ・実際に起こり得るエラーの例を交えて説明いただき、理解しやすい内容となっていた。自工程完結は製造業務に関することと思っていたが、間接業務でも必要な考え方と知った。
- ・自分は間接部門なので自工程完結の必要性がとても参考になった。意思決定がバラバラでもそれなりに仕事ができるしまうということが、プロセス決めがあまりできていないこともあり、能力が高い人物がそれなりの仕事になってしまう原因のひとつがこれではないかと思ったので、部署内で様々なプロセスを相談して実施していきたい。
- ・プロセス管理や自工程完結の考え方、各プロセスの優先順位や判断基準の考え方など、すぐに取り入れられそうな内容が多く参考になった。
- ・自工程完結のための考え方、プロセスは日頃からの自分の思いにかなり近かった。指導に当たって言語化できていなかった部分が今回の講座でクリアになったため、指導やプロセス立案に役立てたい。
- ・仕事の進め方に対して指標となった。自分が指示を受ける場合も指示する場合も自工程完結を意識し、自分の責任範囲を明確に示そうと思った。前工程または後工程でやってくれるだろう、で仕事を行わないことを意識したい。
- ・品質方針に沿うこと、品質目標を達成することは、全従業員がなぜやらなければならないかを理解して初めて目指せるものだ認識した。更に個々のモチベーションが上がる工夫が必要であること、指示をする側は要求する水準を受ける側が理解できるように資料などを使って伝えなければコストも時間もロスにつながる可能性があることを認識した。
- ・品質改善や自工程完結の重要性を具体的な手法とともに学べる内容だった。特に、品質意識向上や教育道場の設立など、人財育成に焦点を当てた実践的なアプローチが印象的だった。全体を通じて、品質管理の基盤を強化や、組織全体での継続的な改善を促進するための方法を学ぶことができた。
- ・間接業務の直行率での評価・自工程完結化のやり方など、参考になった。生産活動と違って、ぼんやりとした手順化しかできていなかったのも、今回のセミナーを参考にしてより明確な手順書を作りノウハウを蓄積させていこうと思った。
- ・スタッフ業務でも、前後の工程とのコミュニケーションをとること、業務を始める前に目的とアウトプットを明確にすること、情報共有の重要性を改めて認識することができた。
- ・前後の工程について、よくコミュニケーションを取り、前工程にはどういう状況なら自分が大変かを伝え、後工程には、どうされたら困るのかを理解し、自工程完結で業務を進めたい。